

アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 2019上級行政官会合(SOM)の結果概要について

令和元年8月6日
内閣府 原子力政策担当室

1. 開催日時 : 2019年7月19日(金) 10:00-16:00
2. 開催場所 : 三番町共用会議所(東京都千代田区)
3. 主催者 : 内閣府
4. 参加国 : オーストラリア、バングラデシュ、中国、カザフスタン、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム (12ヶ国)
5. 我が国の主な出席者 :
十時 憲司 内閣府大臣官房審議官
竹内 英 内閣府原子力政策担当室参事官
北郷 太郎 内閣府原子力政策担当室参事官

6. 会議の概要 :

FNCA 上級行政官会合(SOM 会合)は、FNCA 参加国の原子力科学担当省庁・機関の局長級が出席し、FNCA の最上位会合である大臣級会合(本年は12月5日、東京にて開催予定)の予備的議論を行う場として位置づけられている。今回討議の結果概要は以下の通り。

(1)大臣級会合、スタディ・パネルに関連する事項

決定事項-1:2019年度大臣級会合(MLM2019)での円卓会議討議テーマ等について

- ① 本年の MLM2019における円卓会議のトピックについて、参加国からのサーベイ回答で最も支持を集めた「健康、医療への放射線技術の利用」(Radiation technology utilization in human health and medical well-being)とすることが合意された。
- ② このトピックのもと、サブトピックとして、「放射線医療分野の政策と課題」(Policy on the utilization of radiation technology in human health)、「放射線腫瘍治療に関する先端技術状況」(The current situation of advanced technology related to radiation oncology)及び「FNCA プロジェクトで開発された子宮頸がん臨床治療法を含む放射線医療技術及び技能の現状と問題」(The current situation of technique/skills including the protocols (CERVIX-IV/V) developed in FNCA project as well as challenges) が合意された。其々のサブトピックスについて担当国(1カ国)がプレゼンテーションを行い、それに基づいて円卓討議が行われる。プレゼンテーションは順番に、カザフスタン、日本、タイが其々のサブトピックを担当する。

また円卓会議トピックに関する基調講演については、関連国際機関(候補としてWHO,IAEAなど)からの基調講演者派遣の調整を試みる。

- ③ 日本側から、MLM2019における基調講演において、トピックである「健康・医療への放射線技術の利用」を取り上げるとともに、原子力委員会より原子力分野に関する人材育成についての問題提起を実施することが提案され、了承された。併せてカントリーレポートで、各国の原子力分野での

人材育成状況について触れるよう要請がなされた。改めて事務局より、カンントリーレポート内容全般については文書で加盟国へ要請する。

決定事項-2:2020年スタディ・パネルのトピックについて

- ① 2017年から2019年まで3年連続で原子力法制分野のトピックスを取り上げて来ていたが、今回のスタディ・パネルのトピックとしては、「核同位体技術と気候変動科学」を取り上げることとした。具体的には気候変動とその社会的経済的影響を核同位体技術の切り口から「水圏(Aquatic Session)」、「陸、土壌(Terrestrial Session)」及び「食品と農業(Food safety & Agricultural Session)」の3つのサブトピックスについて討議することが合意された。
- ② FNCAに於いて気候変動科学プロジェクトはオーストラリアがスポンサーとなっており、各セッションの講演者等、今後オーストラリアと調整しながら準備をする。

確認事項

- ① 2018年度大臣級会合(MLM2018:2018年12月東京開催)について、SOM 事前サーベイの結果を紹介しつつ議論を行い、会議の議題、成果、運営などの点において概ね前年比同等以上の評価を得たことが確認された。
- ② 「研究炉利用(Research Reactor Utilization)」、について、MLMトピックとしての強い採択要望があり、来年以降の有力候補として記録された。
- ③ 2019年3月に開催されたスタディ・パネルでは、「原子力関連活動に関する法的、規制的枠組みの中での環境影響評価(EIA)」というトピックで議論が行われた。これに関し、今回 SOM 会合においては SOM 事前サーベイの結果を紹介しつつ議論を行い、トピックの重要性の認識及び各国が得た教訓などの点で参加国から大変高い評価を得た。
- ④ サーベイ回答で「核同位体技術と気候変動科学」に次いで支持が高かった「原子力防災(Nuclear Emergency Preparedness and Responses: EPR)」が2021年以降のスタディ・パネルのトピック優先候補として記録された。

(2)FNCA 表彰

第三回目のFNCA賞の選考を、本年5月より開始。7月の各国コーディネーターによる最終投票の結果を受け、今回の SOM 会合にて下記の通り受賞3チーム(最優秀1+優秀2)を決定した。

- 年間最優秀研究チーム賞 : 放射線加工・高分子改質 (カザフスタン)
- 年間優秀研究チーム賞 : 放射線育種 (ベトナム)
放射線安全・廃棄物管理(オーストラリア)

年間最優秀研究チーム賞受賞チームの代表が本年12月に開催される大臣級会合において受賞スピーチを行う。

(3) 次回大臣級会合(MLM2019)の準備状況等について

本年12月に開催予定のMLM2019(東京開催)の会合アジェンダ(案)が説明され、了承された。12月4日(水)午後から事前準備会合、歓迎レセプション、翌5日(木)がMLMとなる。

(4) 2020年以降のMLM開催地について

尚2020年の開催地について、ホストをする用意のある国は本年9月末までに申し出ることを要請された。申し出がない場合、日本開催になる。また2021年はモンゴルが開催地となる。その後の開催地の持ち回り方式について、本年12月の準備会合で話し合う予定。

以上